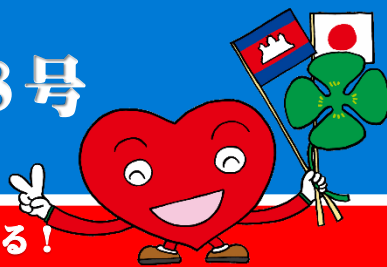


NPO Srolanh Project since2010

# スロラニュー通信 第8号

平成 28 年 12 月 15 日発行

カンボジアの支援の必要な子ども達の「生きる」を支援する！



## チョムリアップスオ！ご挨拶

NPO 法人スロラニュープロジェクト代表 飯塚由美子

当団体に対し、いつもご理解ご協力ありがとうございます。

NPO 法人スロラニュープロジェクトもボランティアグループ「すろまい・こ〜ん」を立ち上げ、カンボジアの子ども達と関わり始めて早7年になりました。

当初、4名から始まった活動も、現在は正・賛助会員・ご寄付者合わせ約100名程度になりました。主メンバーそれぞれが日本において職業を持ち、その経験を生かした支援活動を地道に継続してきたことで、10月12日、公益財団法人神戸国際協力交流センター様から、国際協力検討会議においての講師としてご依頼を頂きました。内容は、神戸国際協力交流センターにおける今後の事業展開等について、カンボジアの現状のお話をするものでした。映像を交えながら、当団体の活動から見えるカンボジアシムリアップ州の障がい児の現状や、学校や子ども達の健康上の課題、貧困ゆえに助かる命も奪われてしまう実態など私なりに一生懸命お伝えしました。元神戸市市長矢田理事長はじめ、役員の皆様が理解を深めてくださり、最後は応援メッセージまで頂き本当に嬉しく思いました。



そして、3年前、まだまだ活動も未熟であった当団体に手を差し伸べてくださった大阪の交野ロータリークラブ様からは、当団体が平成24年に建設したスロラニュー小学校に図書館を建設する為の資金を頂戴いたしました。2月の完成を子どもたちは心待ちにしています。

活動を開始した時から始まった、『継続』の責任を重く抱きつつ、カンボジア王国シムリアップ州において、NPO 法人スロラニュープロジェクトという小さな小さな団体が、大きな責任を持って、これからも皆様の応援を頂きながら頑張っていこうと思います。

## コンビネーション ～2016.7の活動を終えて～ スロラニュー歯科部 大森茂樹



今年度からNPOの理事ということになったけれど、それなりの立場で覚悟をもって活動に参加しなきゃ、という堅苦しい決意のようなものを抱くことはなく、7月のカンボジアに向かった。個人的には6回目の現地活動。出発前に自分なりに今回のテーマを考えてみたら、これまでとは違うことをやろうとしていることに気がついた。

同じことをやり続けるのって大切で、それは基本で、意味がある。ところが、同じことをやり続けようとしても、無意識のうちに少しずつ変わってしまうもの。それはきっと飽きてしまうからで、飽きないようにしようという防御反応が自動的に働いてしまうんだろう。ちょっと違うことをやろうって。

### やるたびに何か変化をつけたがる飽き性の癖尽きぬ楽しみ

今回あらかじめイメージしていた「違うこと」は3つあった。まず1つめの違いは、歯科部として、はじめて歯科医師が二人参加することになったこと。ちょうど1年前、こんな活動をやってるんですよ！と、とある地域の歯科医師会の席で隣の方に話すと、思いがけず関心を示された。ぜひとも自分もやってみたい、とその場で言われてちょっと戸惑ったんだけど、準備期間を経て、今回の参加となった。胸の内に秘めていた夢が現実となるわけだから、その方のテンションがヒートアップするのは当然のことである。事前に知人とともにクメール語訳付きのオリジナル紙芝居を作製し、奥さまとともに同行された。

2つめは、わたしが計画していたことなんだけれども、クメール語訳された絵本をカンボジア人の子どもに読み上げてもらうというもの。事前に現地人スタッフに日本の歯の絵本を託し、クメール語訳をつけてもらっていた。その場で通訳してもらうのではなく、あらかじめ翻訳された絵本を、子どもに直接読み上げてもらうことで、これまでとは違う反応が期待できると考えたわけ。読み手に指名された子にとってはかなりインパクトが残るだろうし、クラスのみんなは友だちが読んでる姿を見て何かしら感じるはず、というのが



ねらい。

3つめは、現地で活動しているNGOを訪問する企画を自分で立案したこと。敷かれたレールの上を走るだけでなく、主体的に活動の幅を広げるというのもおもしろいかも、と思って。現地の医療についての情報源としてつながりを持っておきたいし、そのための関係づくりを自分の手で。

これら3つの「違うこと」を考えていると、それらの中に共通項が見えてきた。コンビネーション。組み合わせ、結合、連携。化学変化を起こした化合物という意味もある。二人の歯科医のコンビネーション、子どもたちとのコンビネーション、はじめて会うNGOの方とのコンビネーション。バレーボールに喩えるとセッターとアタッカーの関係。となるとやはり自分はセッターとしてトスを上げて、アタッカーに気持ちよく打ってほしいと思う。どんなトスが打ちやすいか、というのは人によってさまざまで、これが難しくてもおもしろいわけだけど、果たしてアタッカー陣はどう感じただろうか。

### アタッカー生かすも殺すもトス次第ミスってもいい思い切り打て

コンビネーションだなあと思いながら活動していると、メンバーが互いに接点を持った時や、ふとした場面に化学反応を起こしていることに気がついた。個性的な人たちが参加していると、予想外の反応が起こるからおもしろい。化学反応を促進する触媒の存在もある。わたし自身も複数の方と化学反応を起こし、副産物も得た。

参加したけど役に立てなくてすみません！なんて話す方が、ある場面では大活躍、ということもあった。それはその方とその場面が結びついた結果。また、今回も見守り役の存在の大きさを痛感した。自分には何もできない、と言いながらもあたたかく見守ってくれ、冷静なアドバイスを下さったり、笑顔で励まして下さったりした。この方たちのおかげでわたしたちの化学反応が促進される。

### 人と人触れ合ってスパーク発生できた産物新種のよろこび

毎回行くたびに初めての経験ができる。行ったことない場所に行き、はじめて会う人たちと触れる。打ち解けるまでに時間がかかることもある。化学反応は条件が整わないとはじまらない。裏を返せば意図的に起こすこともできるんだけど、反応がどんな方向に進んでゆくかは起こってみないとわからない。

今回こうして短歌を挿入したのはトゥクトゥクで移動中に話題になったから。「一感動一首よ」と話してくれた先輩女性とのやりとりがきっかけ。へたくそだけど現代短歌を考えるのもまた楽しい。

### 朝礼でタテヨコナメに整列し瞑想する三千の童よ

### 村人の縁台借りて店開き臨時の歯科にできる行列

### おしゃれてデイスは楽しみよ障がいもった子がつなぐ縁

### 孤児院の子がクレヨンで描いた絵に添えるのはアイラブカンボジア

### あの日見た異国の空と校庭のブーゲンビリアが忘れられずに

## カンボジアの明るい未来～2016.7の活動を終えて～ 特別教育支援員 須藤徳子



今回の活動を通して感じたこと、それは「カンボジアの明るい未来」。

カンボジアでのボランティア活動について話すと「あなた達が学校を建てたり、孤児院の支援をするから、カンボジアの人達や政府は自分達でしないで外国からの支援に頼るんじゃないか？」と言われたことがあった。しかし「目の前の一人を救えなければ支援者ではない」というスロラニュープロジェクトの信念のもと、活動を続けてきた。

現地シムリアップに行く度に、道路が整備され街がきれいになっている。田舎の方にも電線が引かれ立派な家も増えてきている。まだまだ不十分だが、ハード面が少しずつ整いつつある様子がうかがえる。そして、今回シムリアップの最大規模のワット・ポー小学校を訪問し、カンボジアの先生方が頑張っておられる姿や子供たちの姿を見て、教育というソフト面にも明るい未来を感じた。

なにしろ、6000人の児童が午前午後の二部に分かれて通学してくる大規模校！午前6時45分から始まる朝会の前、6時過ぎからリュックを背負いお揃いのオレンジ色のアディダスの体操服上下で登校してくる子供たちは、真っ白のソックスと靴をはいていた。学校に来てから売店でパンや飲み物を買って歩きながら食べたり、校舎の後ろにずらっと並んでいる食堂で麺やご飯を注文して食べたりしているのは、いかにもカンボジアらしいと思ったが、教室の前でほうきとちり取りを持って掃除をしている子がいたり、中庭の植物に水をまいたりする姿は、日本の当番活動となら変わるところはなかった。

そして、いよいよ朝会が始まる。およそ3000人が中庭の中心に向かって並ぶ姿は圧巻！初めはだらだらと集まって来ていたが、先生たちが大きな声を出して並ばせるわけでもないのに、そのう



レイククリニック事務所





ち真っすぐに整列し、静かに朝会が始まった。国歌斉唱の伴奏は、子供たち。大太鼓、小太鼓、オルガン、アコーディオン、鍵盤ハーモニカ、タンバリン等で代表児童の指揮に合わせて演奏し 3000 人が歌う。数年前に青年海外協力隊の音楽教師が赴任していたので、それを引き継ぎカンボジア人の先生が音楽指導を続けているとか。朝会は、国歌斉唱に始まり、最後は 5 分間の瞑想。その間約 15 分。幼稚部の幼児を含め、誰一人喋らず倒れず肅々と朝会が行われる様子に驚かされた。日本の学校では、朝会でバタバタと倒れる児童生徒が多いのに…何が違うんだろう？



その後、副校長から学校の概要を伺った。色々な話を伺う中で、校長や副校長が何度も日本に出かけ、日本の小学校の良いところを取り入れながら、カンボジアの実情に合わせて学校運営をされているということに感銘を受けた。田舎の小学校教員にすぎなかった現在の校長が、ワット・ポー小学校の校長に抜擢されてから、手腕を発揮し現在の規模にまで大きくしたとか…教育こそが国の未来を拓く、という信念に基づき学校運営をしてきたからに違いない。その教育を受けようと学校から遠く離れた所からもスクールバスで通ってくる児童も多いとか…子供の教育が大事と考える保護者が増えているということだろう。

帰り際、教室を覗く。1 クラス 60 人。廊下の棚に隙間なく整然と並べられた運動靴、長机の前に椅子が 3 つ。日本のように一人に一つずつのロッカーはなく、椅子の後ろにリュックをかけて静かに授業を受けている。本当にこの教室に 60 人もいるのか？数えると確かに 60 人！勿論先生は一人！常夏のカンボジアでクーラーもない教室で一生懸命勉強している子供たち。熱心に指導をする先生たち。この子たちのつくるこの国の未来は明るいに違いないと思った。

確かに、外国からの支援を必要としている部分は大きいと思うが、自分たちで未来をつくっていかうとしている人々も沢山いることを感じた今回の活動であった。



## シェムリアップで垣間見たもの~2016年7月支援活動の感想~ 森ノ宮医療大学 保健医療学部教授 安田実様

今、改めて英国映画「キリングフィールド」の資料を見ますと、日本では 1985 年の封切りとなっています。映画はニューヨーク・タイムズの記者シドニー・シャンバーグの通訳兼助手でカンボジア人のプランの凄まじい戦場での実体験を映画化したもので、すでに 30 年前の映画ですが、ポール・ポト派がプノンペンに入城するとき、フランス大使館に一時的に逃げお世話のもの、カンボジアから脱出するためのパスポートの偽造が発覚してしまうことで、二人が別れ別れになってしまいます。その後、幾多の困難を駆け抜けプランは生き延びて、シドニーとプランが再会する感動的な映画でした。最後のシーンで流れる ジョン・レノンの名曲「イマジン」は今でも強く心に残っています。

今回アンコールワットで名高いシェムリアップの町に来て、この映画で見たクメール・ルージュの時代(1975年から1979年のポール・ポト政権)がそれほど遠くない過去であることに、改めて気づかされました。

NPO 法人スロラニプロジェクトは、多彩なキャリア、多様な世代で構成されているボランティア組織ですが、一つには小学校建設を通じて飯塚代表の下に徹底的に同じ支援地域、箇所に出向き、まさしく地に足の付いた医療支援、教育支援、経済的支援等の力強い活動は、大きな特徴の一つだと思われます。その活動拠点の一つである、「シェムリアップ孤児院センター」に行くには、幹線道路から雨期には道路が川になってしまうこともある、少し細い脇道に入るわけですが、その道に入る目印は、イギリスの国際的 NGO、Halo Trust の運営する「地雷撤去訓練センター」です。

今回シェムリアップ滞在中の最終日には、日本語通訳兼ガイド兼自宅日本語学校の先生をしているピッチさんのお友達の日本語通訳兼ガイドのディブットさんに、アンコールワット遺跡群を案内していただきました。特にこの地で早朝の日の出を見るため、私たちのシェムリアップでの宿泊先の「イキイキゲストハウス」に朝の 4 時半に迎えに来てくれました。三輪車トゥクトゥクに乗っての道すがら、彼とご家族のことを問わず語りに聞きますと、35 歳の彼のお父さんは、ポール・ポト政権の時代に 9 人兄弟のうち、何と 5 人が殺害されたそうです。彼のお父さんは、冒頭の「キリングフィールド」の記者助手のプランさん同様にインテリであることをひた隠しにして、難を逃れたとこのことを聞くにつれ、改めて映画で見た惨状を想起させるに十分な出来事でもありました。また、浅野忠信主演の映画にもなった「地雷を踏んだらサヨウナラ」の原作者でフリーカメラマンの一ノ瀬泰造のゆかりの地もシェムリアップ郊外のプラダック村にあるようです。

さらに、最近では東京国際映画祭の国際交流基金アジアセンター特別賞を受賞したカンボジア人の女性監督ソト・クォリーカーによる「シアター・プノンペン」が大阪でも上映されたところです。この映画もクメール・ルージュの時代の凄惨な過去について、人々のつらい想いを直視することの難しさを描いているようにも見受けられます。

今回、初めて訪れたカンボジアでは、多くの人が信仰する仏教の影響もあると思うのですが、その人々の立ち居振る舞いや所作に、日本人としての親しみや郷愁を覚えたことは、今回お誘いいただいた下林先生らと一致した印象です。シェムリアップでスロラニプロジェクトの一行が継続して訪



紙芝居(歯磨きの啓発)を手伝う安田様

れている小学校や孤児院センターの子供たちの明るい表情の中に、ある種の憂いを秘め、煌めく心の動きを反映した眼差しを垣間見ることができたのは、大きな収穫の一つでした。このスロラニプロジェクトの支援活動に足手まといの私をも同行することを許し、また誘っていただいた皆さま方のおかげと深く感謝しています。ありがとうございました。

## 岡ちゃんがゆく！in カンボジア

特定非営利活動法人かんむら代表 岡秀行様

友人の「いっちゃん(下林五枝氏)」に誘われ、待ち合わせ場所関西国際空港と旅行期間だけしか確認しないまま中学 1 年生の長男と一緒に参加させていただきました。もちろん、「カンボジアに行く」という事くらいは知ってはいましたが…。

そのような訳で大変申し訳ない話なのですが、最初はなにをしにカンボジアに行くのかよくわからないままの参加でした。ですが、現地で飯塚理事長からお話を伺い、またみなさんの真摯な活動を目の当たりにし大変申し訳なく思い、帰国してから活動報告などを拝見させていただいた次第です。

発展途上にある国ではもちろん、先進国で災害支援を必要とするようなケースでも一方的な支援が顕在することが多いものです。「お金を集めて学校を建てて終わり！」だとか…。

仕事柄そういった活動団体や中間支援組織を拝見する事もありとても残念に思うのですが、どの団体も善意で行動を起こしたのだと思います。わざわざ海の方こうに出向いて行って支援活動をするのですから…。ですが結果的に(例えば適切ではないかもしれませんが)、大自然の中で形成された純然たる生態系に、文明というメスを無理やり介入させるような支援になってしまうことも多いものです。これは「そこで生活する方達の困りごとを傾聴しニーズを掘り起こす」ことを怠ったか、或いはその情報収集後に支援組織に多くの支援者が入ってきた事で当初の理念がブレる事が多いようです。スロラニプロジェクトも現在の支援体制が確立されるまでには、大変なご苦労があったと飯塚理事長からお話を伺いました。ですが小学校の設立をはじめどの支援においても、丁寧に現地の方達から聞き取りを行い、「建てっ放し」にするのではなく「継続した支援」を実践されていました。最も大切に難しいのがこの「継続した支援」ですが、これを実践するには「理念」や「想い」だけでなく、そこに根付く文化や習慣を受容し、支援者がそこに住む方たちに交わって受け入れてもらえなければ成し得ない事だと思います。子供たちに対する支援は親御さんや家族、その地域で暮らす方たちのマンパワーをしっかりと引き出して維持する事が重要で、これは「地域づくり」に繋がります。これらを実践するためには、つまるところ「人間力」とでも言うのでしょうか、理屈や説明ではどうにもならないような力を必要とすると思います。パンナさんやピッチさんはじめ現地スタッフが生きいきと活躍し、子供たちのご家族さん達からも信頼されるスロラニプロジェクトは、それらのすべてをしっかりと抑えているという事である証だと思いました。



そしてもう一つ感銘を受けましたのが歯科医師の大森先生。今回は、先生がお誘いした宇都宮先生とご一緒の活動でした。カンボジアでは歯医者さんに通うのにトゥクトゥクで 1 時間なんてあたりまえ。また日本のように公的な医療保障等が無く、多くの国民にとっては高額な治療となってしまいます。その国で垣間見た先生たちの現場でのミッションは、ひとつはいち早く苦痛を取り除いてあげること。虫歯の苦痛は耐えがたいものですが、抜歯によりその苦痛を取り除く。ふたつ目は虫歯を作らないための予防。小中学校に足を運び、分かりやすくクメール語で描かれた手作りの紙芝居を効果的に使い、虫歯のこわさ、歯の大切さを絵本で子供たちに伝えてゆく。密林の中に点在する村にまで足を運び、歯磨きの習慣を定着させるために何百本もの歯ブラシを村人たちに配り、ブラッシングの指導を行う等の啓蒙活動もされていました。大森先生とお話をさせていただく機会もありましたが、痛みを取り除くことも予防も大切だけれど活動を継続できなければ意味がありません。ですから大森先生は年に 2 回程度カンボジアに行き、こういった活動を続けているそうです。もちろんその間はお自分のクリニックは休診ということになりますが…。歯科医師だからではなく、「人としての自分がやれる精いっぱい…」それがたまたま歯科医師としての活動だったということのように感じました。

飯塚理事長、それを支える服部さんに石倉さん、そして大森先生。活動に携わるまだまだ多くの方がいらっしゃいますが、どの方も人間が本来もっているヒューマニティーに溢れていました。皆さんとご一緒させていただき私自身とても居心地が良かったのですが、残念ながらそのあたりまえのものが懐かしくさえ感じられてしまう目まぐるしい情報化社会の中に戻って来てしまいました。今回、「お手伝い」と言えるような事はできなかったのですが、また機会があれば是非ご一緒させていただけたらと思います。ありがとうございました。



褥瘡処置に取り組む岡様



## 2016年7月主なカンボジア支援活動スケジュール

7/23 (土)

ワット・ポー小学校訪問 / コムルー村 (スロラニユ小学校視察+歯科支援)

障がい児宅訪問 (現状把握及び生活支援) / ピッチ日本語教室訪問 (教材寄贈)

7/24 (日)

スロラニユ小学校 (Tシャツお絵描き教室+ブラッシング指導)

ソンボワ君宅訪問 (褥瘡処置) / シェムリアップ孤児院センター (お絵描き教室+歯科支援)

※孤児院センター入所児童全員と韓国料理店ダイバクにご招待しての夕食

7/25 (月)

シェムリアップ孤児院センター (障がい児デイサービス) / ソンボワ君宅訪問 (褥瘡処置)

ドントロー中学校 (中学2年生へのブラッシング指導)

7/26 (火)

レイククリニック訪問/支援児者家庭訪問 (現状把握及び生活支援)



### 2016年7月スロラニユプロジェクト支援活動参加者

(左上から) 下林五枝様、石倉泰三、プロム・ビチェット氏、安田実様、宇都宮寿子様、宇都宮淳様

(左下から) ソパンナ・タン、大森茂樹、飯塚由美子、須藤徳子、岡史郎君、岡秀行様

(撮影) 服部記昌

※プロム・ビチェット氏に関しては支援活動には参加しておらず、当団体ご用達の宿泊先「イキキゲストハウス」のご家族の方で現在、日本語ガイドで活躍されています。

## スロラニユ小学校のもう一つの役割

～現地スタッフパンナさんからの報告より～

支援者の皆さんから小学校建設の趣旨にご賛同してご寄付をいただき、約270人もの日本の若者たちから貴重な時間をお借りして建設されたスロラニユ小学校。

国道6号線を横断してドントロー小学校に通う際に子ども達が交通事故に遭っている現状を聞き、コムルー村の子ども達の「命」を守るために、たくさんの方々の支援のおかげで建設されたスロラニユ小学校でスロラニユ小学校や本校のドントロー小学校の先生はもちろんのこと、近隣の学校の先生方も参加してのミーティングが不定期ではありますが行われています。

今回2016年7月28日に行われたミーティング内容は「子ども達の試験問題等について」でした。

2012年、スロラニユ小学校建設。そして現在に至るまで継続支援にたくさんの方々が尽力していただきました。だからこそ、子ども達の「命」を守るだけでなく、現地の方々に「スロラニユ」の名前と同じく愛され、有意義に活用していただく小学校になっているのだと感じます。



## 交野ロータリークラブ様からのご支援

2016年10月13日、大阪府交野市の交野ロータリークラブ様からカンボジアでの障がい児デイサービス実施の為の資金として、孤児院センター内の温水シャワーや調理場の水道設備、窓の内装工事などの環境整備や、デイサービス当日の食事支援など有効に使わせていただきました。そして、この度は、スロラニユ小学校に図書館建設の資金もご支援いただきました。資金繰りに困っていた時、ご紹介して頂いた交野福祉会の奥理事長様のご好意により始まったご縁。

例会でも、いつも皆様の温かいまなざしや激励のお言葉に力を頂いております。

2016年11月からスロラニユ小学校の校庭に図書館建設が始まり、2月までに完成します。又、教科書や絵本なども子ども達にプレゼントして下さるとのこと。私たちは、スロラニユ小学校も2012年に建設して以降、修繕や行事など継続支援を行ってきました。

これからは、図書館も含め大切に維持していくつもりです。交野ロータリークラブの皆様、本当にありがとうございます。



## 西須磨福音ルーテル教会でのスロラニユプロジェクト活動紹介

2016年10月16日に西須磨福音ルーテル教会の礼拝で、NPO法人スロラニユプロジェクトの活動をご紹介させていただきました。

NPO法人スロラニユプロジェクトの理事である大森歯科医院を利用されている足立様からのご紹介でした。

現地活動の映像と説明を礼拝に参加されていた皆様お一人お一人が真剣に聞いてくださり、当日行われたフリーマーケットの売り上げ全てを、NPO法人スロラニユプロジェクトにご寄付していただく予定です。

本当にありがとうございます。



## 皆に愛されたソペア君

～現地スタッフパンナさんからの報告より～

2016年7月、我々が支援活動の為、カンボジアに訪れた際、いつもの愛くるしい笑顔を見せてくれたソペア君。障がい児デイサービスにも家族4人(ご両親とお姉ちゃん)で元気に参加してくれました。そんなソペア君がまさか3か月後の10月に天国に召されるとは誰が考えていたでしょう・・・。

2016年7月の支援活動を終えて日本に帰国した後も、パンナさんからはいつも元気に過ごしているソペア君の様子がインターネットを通じて報告がありました。10月5日、ソペア君が風邪をひいてしまったが、お医者さんから薬をもらい静養しているとのことだったので早期の回復をスロラニユプロジェクトのメンバー全員で祈っていました。そんな矢先、10月15日の時点でジャヤバルマン病院の医師から「もう長くは生きられない」と診断を受け、お母様の意向で自宅に戻り療養していると報告がありました。

ソペア君には携帯電話などの連絡手段がなく、パンナさんもソペア君が風邪から肺炎を患い病院に入院していたことを後になって知り、パンナさんからお母様に別の病院への入院をお伝えしましたが、はじめに対応したジャヤバルマン病院の医師からの「もう助からない」と伝えられたことから拒否されました。お母様の最後は家で看取りたいというお気持ちが強く、当団体からの「入院費や入院した際のソペア君に付き添う世話人の費用を負担するので希望を捨てずに対応してみましょう」との申し出を、再三パンナさんから話してもらいましたが全て断られてしまい



2016年9月のソペア君



ました。

そして10月23日ソペア君が他界したと悲しい報告をパンナさんから受けました。ソペア君は家から歩いて5分ほどの林の奥に入った静かで小さな広場に土葬されています。

日本では助かる命であったかもしれません。開発途上国の村で支援が必要な体で生まれた幼い命は日本で生活している我々が想像する以上に「生きる」という何気ないことだけでも非常に困難であると今回も痛感させられました。今後は支援の必要な子ども達に対して栄養面や衛生面の向上を図るとともに、生命の危機に瀕した時の対応（入院費、世話人の費用支援等）をお母様たちにお伝えして子ども達の「命」を守っていきたく強く感じます。ソペア君のご冥福をお祈りします。



## ロー・リナー君の教育支援報告

2015年9月6日、代表の飯塚が見守る中、スロラニュープロジェクト支援児童であり、内部障害のあったロー・リッ君が息を引き取りました。リッ君が他界してからもお父様を癌で早くに亡くし、お母様一人、自宅でクリーニング業を営み4人の子ども達を養育しなければいけない家庭状況を考慮して生活支援を継続して行ってきました。そして、リッ君支援の時には見えなかった家族の状況が次第に分かったことでリッ君のお兄さんロー・リナー君の存在を知ることになりました。

ソワイトム中学2年生のロー・リナー君の夢は“弁護士になること！”  
しかし、極度の弱視で本と目の距離わずか1cmという大袈裟に聞こえますが、本当にそのくらいの距離でいつもご自宅に訪問した際、大好きな勉強に励んでいる姿が印象的だったリナー君。本人やお母様から学校での授業の様子を聞くとやはり、黒板の文字は前の席からでも見えないことから友達に板書された内容を聞いたり、あとでノートを見せてもらったりしながら授業を受けているとのこと。そんな勉強をすることに困難な状況であったため、今年の2月に当団体から本人を市内の眼鏡屋さん連れて行き、本人に合ったメガネを購入してもらいました。

そして、2016年11月の時点では2月以降も現地カンボジア人スタッフのパンナさんがリナー君を眼科クリニックに何度か通院させ治療したことで更に当初に比べ視力が向上しています。

リナー君に関しては、スロラニュープロジェクトをご支援いただいている皆様からご寄付を募り、大学までの授業料を負担させていただくこととなっています。これからもカンボジアの明るい未来ある青年の夢を叶えるべく微力ながら本人に寄り添い支え続けたいと思います。ちなみに、奨学金のご寄付は継続中です。



## 2016年11月カンボジア支援活動報告

2016年11月25日から29日まで代表の飯塚、理事の石倉と服部でカンボジアを訪問してきましたので、以下に主な活動のご報告をさせていただきます。

11月26日、交野ロータリークラブ様からご支援いただきスロラニュー小学校の敷地内に図書館建設を行う為に事前ミーティングをサラット校長、チューンコムルー村副村長、ソンバツ図書館建設監督、そして飯塚とで行いました。

2012年、スロラニュー小学校建設ボランティアの皆様にご提供いただいたピンクの像の滑り台が老朽している為に残念ですが、安全面を考慮して取り壊し、その跡地に7m×5mの図書館を建設することとなりました。

来年、2017年2月中旬に完成予定です。我々が日本に帰国した11月30日から図書館建設が開始されています。小学校同様にコムルー村の皆様にご愛される図書館となるように見守り続けたいと思います。



2017年の2月完成に向けて急ピッチで作業が進んでいる様子です！！

2016年7月に訪問して岡秀行氏を中心となって褥瘡の処置を行なったソンポワ君。その後も褥瘡の処置をお母様も懸命にソンポワ君に関わっていただいておりますが、残念ながら褥瘡の状態は芳しくなく、11月26日に訪問して処置を行いました。

お母様も、ばい菌が入ったことが原因と思われる耳の腫れや、腰や胃などの不調を訴えられ、ソンポワ君の養育に困難をきたしているよう村の家庭の衛生面の問題、介護者の介護による疲弊等の問題を痛感させられました。

2016年11月27日、ソンポワ君の医療ケア、そしてお母様に対してはレスパイトの必要性を考慮し、孤児院センターへのショートステイという方法も視野に入れ、Department of Social Affairs Veteran and Youth Rehabilitationのディレクターであるウー氏とシエムリアップ孤児院センターのソクン氏と親睦を含め、ミーティングを行いました。

今回、パンナさんの紹介でお会いさせていただいたウー氏はシエムリアップ州のNGOやNPO、そして年金等を管轄するトップの方で孤児院センター一長ソクン氏の上司とのことでした。

半年前にウー氏がDepartment of Social Affairs Veteran and Youth Rehabilitationのディレクターに就任されたことで孤児院センターの入所児童の処遇や環境面において、積極的に改善に向けての取り組みに着手されているとのことで、障がい児支援を含め、連携を図るための有意義なミーティングをさせていただきました。

またソンポワ君のショートステイについても承承していただきました。今後、お母様の体調不良や介護疲れの際、家族に負担とならないよう迅速に対応していきたくと思います。



11月28日、久しぶりの井戸建設支援のためバンゴア村へ！！  
カンボジアにおいて今回が18基目となる井戸がバンゴア村に建設されます。看板が先に完成したので協力者でバンゴア村の名士ホームさんに渡しました。この度、井戸建設にご寄付いただきました、西村清治様ありがとうございます！！  
久々の井戸建設にバンゴア村の村民の方々も大変喜ばれ、今回も更に水が出づらい地域での井戸建設ということもあり、ホームさんと一緒に建設現場で行くと、ぞくぞくと周辺に住む村人の方々が集まり、「ここがいい」「あそこがいい」と話し合っていました。



11月29日シエムリアップ州のマンモス校、ワットポー小学校でピアノを贈呈させていただきました。ワットポー小学校では6000人の子ども達が在籍しています^^  
飯塚代表が日本で常務理事兼施設長として勤務している社会福祉法人三田谷治療教育院 明石市立あおぞら園の保護者の皆様、職員の皆様から集めたピアノをワットポー小学校プン・キムチェン校長先生にお渡しさせていただきました。  
まだまだピアノの数は足りていないので、もし皆様の押し入れやタンスに眠っているようでしたら有意義に活用しませんか？ご連絡お待ちしております。



## 私たちの活動にご賛同頂ける方へ協力をお願いします

スロラニュープロジェクトは継続して支援いただく、皆様のご協力によって成り立っています。活動にご賛同していただいた方に、スロラニュープロジェクトの会員になっていただき、その会費を大切に支援活動費として使わせていただきます。ご協力お願い致します。

- 会員の種類 個人 団体
- 正会員 1口1000円(月会費) 1口10000円(月会費)
- 賛助会員 1口1000円(年会費) 1口5000円(年会費)
- ※賛助会員(個人)の年会費につきましては3口からお願いします。



## 振込先のご案内

- 銀行振込  
みなと銀行支店：明舞支店(普) 口座名：特定非営利活動法人スロラニュープロジェクト理事長飯塚由美子 口座番号：3895462
- 郵便振替  
加入者名：特定非営利活動法人スロラニュープロジェクト 口座記号番号：00980-1-172480  
※お願い 恐れ入りますが、手数料についてはご負担をお願いします。